

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170201691		
法人名	株式会社マシメディカルサービス		
事業所名	グループホーム ラポール北原台		
所在地	埼玉県川口市北原台1-6-1		
自己評価作成日	平成23年10月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/information_Public.do?cd=1170201691&scd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2F
訪問調査日	平成23年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・1月の餅つき大会に始まり、さくら祭り、春の全体旅行、ソーメン流し、納涼祭、秋のユニット旅行、クリスマス会を行っている。施設を開放し、地域のほう参加も呼びかけている。 ・アニマルセラピー、アロマセラピー等のボランティアを活用することにより、ご利用者の認知症の周辺症状の改善に取り組んでいる。 ・生活支援目標、ポイント制度の導入により、ご利用者の自立支援に努めている。 ・個別ケアでご自宅への一時帰宅や、墓参り、オートレース観戦などを実施している。 ・経営母体が益子病院であり、医療体制や入院時の受け入れが確保されている。併設のケア付き住宅や、グループに居宅支援事業所、デイサービス、介護老人保健施設、など多角的に展開している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅地にある当ホームは、ホーム内においても季節が感じられるよう、飾りつけなどに工夫をしている。また、以前外出した時の写真を共有空間に張り、利用者と一緒に話すなど、外出した後も楽しめるように工夫している。個別ケアをとても大切にしており、1年に1度職員と利用者がマンツーマンで外出することもある。近隣の住民との関係も良好で、餅つき大会、さくら祭り、納涼祭、避難訓練等施設の行事にも積極的に参加してくれており、利用者の楽しみともなっている。アニマルセラピーやアロマセラピーなど利用者がリラックスできる環境を作っている。利用者一人ひとりにあった支援を行っているホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	町会納涼祭参加、餅つき大会、ソーメン流し等施設周辺住民の協力、参加で行われている。	ユニット毎の目標はユニット会議などで皆と話し合い、決めている。また、管理者及び職員は経験を積み重ねるとともに、理念の意味を再考し、これまでの生活に少しでも近づけられるようなケアを目指し取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会清掃の参加。資源回収の協力。	町内会に加入しており、納涼祭や新年会などに参加している。また、ゴミ拾いや資源回収にも参加し、地域の方との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭、各種行事を地域の方に開放。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業報告と地域の方々、ご利用者の参加により、各種事業についてのご意見をいただきそれに沿って事業実施。	運営推進会議には家族や地域包括、民生委員の他に利用者が全員参加している。家族の参加がしやすい環境を作るため工夫している。会議で出た意見は運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	川口市介護保険課や戸塚地域包括支援センターと連携し、事業所の運営やケアの内容について助言をいただいている。	市との連携は良好で、相談や業務の連絡を密に取っている。また地域包括主催の地域の勉強会に参加しており、近隣の方とも交流を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束について」内部研修を実施し、内容について理解している。ユニットの出入口のみ安全面のた施錠している。	身体拘束をしないケアを心がけている。研修では、身体的な拘束以外にもスピーチロック等、言葉による拘束についても理解している。また職員はその都度注意し合い支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育委員会やユニット会議や介護の勉強会で話し合いを行い、虐待の防止の意識を職員一人一人が持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての資料を作成し、各ユニットに配布している。今後は、研修会実施を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が契約事務・説明を実施し、理解納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置および運営推進会議に参加していただき、ご意見をいただいて施設運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置したり、運営推進会議に参加した時、来所した時などに家族から意見をうかがっている。頂いた意見は速やかに職員と話し合い運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族の意見などは全体会議、ユニット会議、毎日の申し送り等して話し合い、反映させるようにしている。	職員会議は月に1度行い、職員から意見を聴く機会を設けている。職員会議に参加できない職員からは事前に意見を聴いている。また個別面談も随時行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課と目標管理シートによって個々の勤務状況を把握し、目標を達成できるように支援している。 また、職場環境・条件の整備にも努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会で各種研修会の案内や介護に関する資格の内容を案内したり、外部からの講習会や研修会案内を回覧し参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との事業交流(ソーマ流し・納涼祭等)や見学を行い情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご利用者の自宅や入院先などに伺い、直接、ご利用者から不安なことや、ご要望を伺い、できるだけ安心して入居していただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、初回ケアプラン作成時にご利用者、ご家族支援要望を職員相互で共有し、ご要望に沿ったサービスに努めるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、ご利用者にとって、最も必要とされているサービスを見極め、優先的に実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内では、食事作り、洗濯などをご利用者様と一緒にいき、ご家庭にいた時に近い生活環境になるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況報告や面会時にご利用者の状況を詳細に報告し、職員が媒介となって、御家族に認知症やご利用者に対する認識を深めていただき、共にご利用者のケアを実践していけるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人などが面会に見えたときには、居心地のよい環境を作り、また、個別ケアで自宅に一時帰宅したり、趣味である競馬場に行ったりしている。	個別ケアも大切にしており、マンツーマンで利用者の希望に沿った支援を行うなど、利用者第一の支援を行っている。また友人が来やすい環境作りも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや作業をご利用者同士と一緒に出来るよう支援し、環境作りに努めている。食事席など楽しく、会話しながら食事ができるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先にお見舞いに伺ったり、移動した先の施設に面会に伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	他のご利用者様に迷惑のかからない範囲でご本人の希望、意向をご家族と相談しながら叶えられるように努めている。	利用者の意向や思いを把握するために、月に一度利用者と一緒に行事や入浴、レクリエーション等を決めている。また家族からも話を聴き、より多くの意向や思いを把握できるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報で提供書の内容を把握する。職員同士の情報交換などによって努めている。情報不足の部分は、利用者本人、家族から話を聞いて把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、見守り等で、ご利用者の変化などを把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ユニット会議を行い、各利用者の変化などを把握するよう努めている。ケアプランに沿って職員で共有していく。	ケアプランの作成は居室担当を中心に、施設長やケアマネジャー、職員と話し合っている。いろいろな面から利用者の変化を見ることができるので、利用者に沿ったケアプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、ユニット会議で職員が情報の共有をしケアプラン作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護記録、利用者ノート、申し送りノートを業務前に必ず確認し、日々変化するご利用者のケアに対応できるようにしている。また、必要があれば介護計画を見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	和太鼓、アニマルセラピー、アロマセラピーなど地域で活動されている方にボランティアに来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診察の他、緊急時病院と連携を図り、適切な処置ができるようにしている。	受診の際には、家族や職員の対応で、利用者に適切な医療が受けられるよう、支援している。緊急時の対応もできるよう、職員は研修等に励んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診ノートを活用し、日々、気づいたことを細かく看護師に伝え、情報交換を密にし利用者一人一人の健康状態を把握するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同じグループ内に病院があり、医療機関との情報交換と相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合における看取りの指針」についての説明を行い、御家族、ご本人の意向を確認している。	重度化や終末期に向けた支援については、入居の際に説明している。また重度化した場合は、家族、医師、施設の三者で話し合い、利用者にとってよりよい支援ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応手順書を各フロアに掲示し、リスク・教育委員会の会議も1ヶ月に1回行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を実施し、当日参加できなかったスタッフに対してもマニュアルを作成し安全に誘導できるように徹底している。	年2回の消防訓練では、消防署立会いの下、駐車場までの避難訓練を行っている。近隣の方も参加していただき、地域の協力体制も良好である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、人生の先達として敬意を持って接し、個々の人格を尊重すように接している。	利用者ひとり一人の尊重等を損ねないように、声掛けには注意している。これまでの生活歴を基に、その人らしく生活して頂く事を第一に、その都度職員は利用者の事を考えた声掛けをする様、工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のコミュニケーションの中で、ご利用者の思いを受けとめ、個別ケアの外出を実施したり、ベランダで花や野菜の栽培を行ったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事、散歩、レクリエーション等ご利用者の意向を第一に考慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はできるだけご自分で選んでいただき、髪型等もご本人の希望に沿ってヘアカットするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事などご利用者の好みを伺っている毎日の味噌汁作りや、配膳、片付けなどご利用者と共に行っている。	配膳や下膳などできることは手伝っていただき、利用者の楽しみを作っている。また外食などは、フードコートに行くなど利用者自身に食事を楽しんでもらえる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取、水分摂取表を作り、摂取量が少ない方には、主食をおにぎりしたり、水分を好みの飲み物に変えたりして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に口腔ケアを促し、一部介助にて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を参考に、排泄パターンを把握し、誘導により自立に向けた支援を行っている。	入所前に比べて、小まめな声掛けやパターン表を使用し、利用者個人にあった支援を行い排泄の失敗などが減った等、改善例が見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、水分補給、排泄表などで予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1度「お風呂に入りませんか」と意思確認し、拒否がある時は再度声かけをしている。	季節を感じながら入浴を楽しんでいただけるよう、入浴剤を使用したり、ゆず湯やしょうぶ湯、ミカンや林檎を使用したお風呂を提供している。入浴を拒否する利用者には、声掛けに配慮し入浴して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢と健康状態を考慮し、休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋にて薬の副作用や用法や用量について理解し、服薬チェック表を用いて服薬確認者を明確化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自立支援目標を各利用者にとっていただき、お手伝い、役割等で張り合いを持っていただき目標達成時に表彰する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、買い物同行、個別ケアなどで行っている。	日常的な散歩は、その日の天気や利用者の体調を考慮して、何回かに分けて行っている。外出ノートが玄関にあり、利用者の外出支援や頻度を把握できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にでかけた時などできる方には、支払いをご自身で行っていただいている。ご利用者で強いご要望のある方は、1か月一万円程度のお小遣いを自己管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の要望があれば、施設の電話を使って外部の方に電話していただいている。手紙は散歩時にご利用者が投函されたり、職員がお預かりして投函したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	金魚を飼ったり、観葉植物を飾ったりしている。また、季節感を採り入れている。掲示物にを貼り生活感を出している。	共有空間は、利用者が思い思いに過ごせるように机やテレビの配置に気を付けている。写真を飾ったり、皆での思い出話ができたり、季節感を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ、フローアソファ、テーブル席など自由に出入り可能。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンス、鏡台、机などご自宅にある物を持ち込んでいる。	居室は、利用者の心地よく過ごせるように、テーブルやダンス、仏壇など馴染みの家具などを設置している。家族の写真が飾ってあったり、畳を敷いている方がいたり、その人にあった部屋作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアや浴室の手すりなど、必要最小限にとどめて、安全かつ自立した生活が送れるように支援している。		